

歴史的古民家（通称浜屋敷）を活用したまちづくり

NPO吹田歴史文化まちづくり協会

理事長 ○尾浦 芙久子、副理事長 阿部 弘明

1. 活動方針

平成15年、吹田市は寄贈された江戸時代後期の歴史的な古民家を保存・修復し、歴史・文化のまちづくりに関わる市民交流の場として「吹田歴史文化まちづくりセンター（通称浜屋敷）」をオープンさせた。浜屋敷は吹田市初の公設民営施設として、吹田歴史文化まちづくり協会（平成19年特定非営利活動法人となる）が運営することとなった。以後現在に至るまでNPO吹田歴史文化まちづくり協会（以後協会）は指定管理者として、施設の維持管理及び事業の企画運営を行い、地域のまちづくり拠点施設として利活用している。

協会は、古民家「浜屋敷」を活かし、歴史と文化のまちづくりを進めるために「市民活動の支援並びに市民相互の交流及び連携の促進」「情報の提供」「講座・研究会等の開催」「地域の民俗資料の収集及び活用」という活動方針を掲げて活動を行っている。また活動に際しては、清掃ボランティア・まち案内人等のボランティアグループの協力による運営という試みを継続している。

2. 活動内容

貸館活動は、年間来館者数約2万人超となり市民に活動・交流・情報の場を提供している。事業としては、歴史的建造物「浜屋敷」を生かした様々な事業の企画・実施により地域活性化に取り組んでいる。

□歴史的な古民家（浜屋敷）を利活用した伝統行事の実施

正月飾り・かるた遊び・ひな祭り・端午の節句・七夕笹飾り・月見茶会・餅つき・年越しそば等様々な伝統行事の実施。

□地域の民俗資料の収集・保管・公開

郷土史家加賀眞砂子氏収集による郷土資料を中心とした「加賀眞砂子文庫」の開設など地域の民俗資料の収集。

□地域伝統芸能遺産の継承

吹田の旧町に所蔵しているだんじりの巡回展示・公開。
郷土史講座の開催による郷土文化・芸能・歴史の継承。

□地域資源の発掘

ボランティア「吹田まち案内人」が行うまち案内事業による地域景観のまちづくり活動
公開講座「まち歩き報告会」「吹田の技」「地域のチカラ」等による地域の魅力再発見

□歴史的建造物の新たな利活用の試み

現代アート展覧会「古民家まるごとアートまるかじり展」の開催による、古民家の新たな魅力の模索。
へっついを使った料理講座、庭園を活用した創作劇など浜屋敷の施設・敷地を利活用した新たな試み

3. 他の団体の参考となる事例

□新しい形態のコミュニティ施設管理・事業運営

行政にとっては公設民営のまちづくり施設の運営という前例のない取り組みであり、共に手探りで施設の運営・事業を進めてきた。現在も行政と運営協議会を開催し、より良い「浜屋敷」の運営を模索している。

□情報提供（会報誌の発行およびウェブサイトの運営）

設立当初より、2ヶ月毎に会報誌「吹田ノ渡シ」を発行し、情報提供に努めている。またウェブサイトを運営し随時更新を行っている。

4. 今後の課題等

□ボランティア参加者の減少・高齢化

約7年を経過し、当初活発に活動していたボランティア参加者は、固定化すると共に徐々に減少し、また同時に高齢化が進み、活動が停滞してきている。

□協会開催事業の増大と予算の増大

当初、施設の周知やPRを図るため、様々な事業を積極的に行った結果、事業数が年々多くなり、貸館活動や来館者による施設見学と調整、事業予算の確保が難しくなっている。また事業内容の固定化と共にマンネリ化が進むなど開催事業の評価・見直しが急務となってきた。

□事業評価システムの整備

事業内容の事前精査、事業後の評価と内容見直しなどを行うシステムが整備されていない。

再生古民家（浜屋敷）を 舞台にした地域魅力発掘

特定非営利活動法人
吹田歴史文化まちづくり協会



団体概要・活動目的・概要

- 設立年月 平成15年2月8日設立
(平成19年特定非営利活動法人)
- 活動人数 理事17名 監事3名 評議員17名
ボランティア 12グループ120名
- 活動の目的
吹田南高浜の地より地域に息づく歴史を学び文化を継承発展させ、まちに魅力と潤いをもたらし、また文化活動の振興と交流の場となり地域の発展に貢献する。
- 活動の内容
活動拠点となる古民家「浜屋敷」を活かし、歴史と文化のまちづくりに関する
 - 1、「市民活動の支援並びに市民相互の交流及び連携の促進」
 - 2、「情報の提供」
 - 3、「講座・研究会等の開催」
 - 4、「地域の民俗資料の収集及び活用」

建物の外観・内観



地域資源の発掘活用 事例紹介

- 浜屋敷にふさわしい事業展開
(施設の有効利用)
- まちづくり活動の推進のため、公募市民・
有志・ボランティアを巻き込んだ活動
- 地域資源の発掘・紹介・発展推進
- 積極的な施設活用

歴文亭「人形浄瑠璃・鹿角座」

- 北摂能勢に伝わる伝統芸能を紹介
- 打合せから準備、公演までボランティアと協力
- 人形浄瑠璃説明や市民人形体験

〈能勢の浄瑠璃〉の歴史と「能勢人形浄瑠璃鹿角座」

〈能勢の浄瑠璃〉は太棹三味線と太夫の語りによって物語が進行する素浄瑠璃といわれる座敷芸で、江戸時代中期から今日まで200年にわたり能勢の町民たちが稽古を積み、発展・継承してきた。この永く伝えられた〈能勢の浄瑠璃〉を地域の財産として守り育てていくと共に、次の世代にむけての提案と発展のため、人形・囃子を加えたビジュアル化で、1998年に《ザ・能勢人形浄瑠璃》がデビュー。人形首・人形衣装・舞台美術・演目など、能勢オリジナルにこだわり活動。2006年10月には新たに名称を《能勢人形浄瑠璃鹿角座》として劇団の旗揚げをし、毎年6月の自主公演をはじめ活動している。



歴文亭「能勢人形浄瑠璃・鹿角座」



能楽囃子

- プロの能楽師による解説と楽器体験
- 公募市民と能楽師による合同演奏
- 恒例事業となり、伝統芸能の継承に寄与



浪曲の夕べin浜屋敷

- 忘れ去られかけていた室戸台風時、吹田豊津小での話を浪曲で伝承
- 地域の人々の協力により公演にこぎつける

浪曲「豊津小学校哀史～あゝ吉岡訓導」

口 演 菊地まどか

三味線 澤村さくら

